

海田東小学校校舎建替に関する保護者・住民説明会 議事要旨

日 時：令和7年5月26日（月）19：00～20：00

場 所：海田町民センター ホール

出席者数：18名

事務局：海田町教育委員会事務局職員，海田東小学校長，株式会社あい設計

議事要旨

（以下 ○：出席者からの発言，●：事務局の発言）

1 教育長挨拶

- 本日は3月31日付けで策定した基本計画について皆様と情報を共有し，御理解いただくために，説明会を開催させていただいた。
現在の進捗状況や今後の計画について説明し，皆様の御意見や御質問にもお答えさせていただきます。

2 海田東小学校校舎建替 基礎情報

- まず，基本計画の内容について説明する前に，海田東小学校の基礎情報として，将来の児童数と学級数の見通しについて説明する。
今後の児童数は，令和12年度に553人で最大数となり，その後緩やかに減少し，令和32年度以降は，460人程度を維持する見込みであると想定している。
また，今後の学級数については，令和2年度が21学級となっているが，令和7年度時点で通常学級が各学年3学級，特別支援学級が5学級の23学級であり，今後も大きく学級数が増減することはないと想定している。こうした情報を前提に海田東小学校の新校舎の規模も含め，基本計画では検討を進めてきたので，お伝えさせていただく。

3 基本計画策定に係るこれまでの検討状況と今後の予定について

- 令和6年8月に，海田東小学校校舎建替基本構想を策定し，建替えに当たっての町の基本的な考え方をまとめた。この基本構想をベースとしつつ，基本計画の策定や基本・実施設計を行うため，公募型建築プロポーザルにより，業者選定を行い，令和6年12月6日付で，海田東小学校校舎建替基本計画策定及び基本・実施設計業務の委託契約を締結した。
契約以降は，業者と連携しながら，校舎配置やゾーニング，概算事業費，事業スケジュール等を盛り込んだ基本計画の策定作業を進めた。
策定にあたっては，様々な視点での御意見を計画に反映できるよう，海田東小学校校舎建替検討部会のメンバーや海田東小学校の教職員・保護者・地域住民の皆様による地域ワークショップや，海田東小学校と近接する住宅にお住まいの方々を対象とし

た地域説明会を開催し、新校舎の配置やゾーニングについて、御意見を伺った。また、議会にも、ワークショップや地域説明会の開催状況を含め、校舎建替の進捗について説明し、議員の皆様からも御意見を伺った。このように、計画策定に当たっては、様々な立場から御意見をいただいております。その中には、校舎配置に関連して、建替工事による子供たちの負担軽減を図るため、仮設校舎を建設しない配置が良いといった意見や、校舎の配置によっては、学校敷地と近接する近隣住宅への配慮として、視線や圧迫感、音等の対策が必要といった御意見もあり、こうした意見も踏まえながら、検討を重ね、令和7年3月31日付けで、基本計画を策定した。

なお、令和7年度は、10月末を目途に基本設計を完了し、そこから切れ目なく、実施設計に着手する予定である。

4 海田東小学校校舎建替基本計画の目的と位置づけ

- 海田東小学校の校舎建替のプロセスとして、基本計画では、町が昨年8月に策定した基本構想内の整備方針を具体化し、今後の設計を進める上での方針・枠組みをまとめている。

その主な内容としては、新校舎の規模や配置・ゾーニング計画、概算事業費、事業スケジュール等がある。

5 海田東小学校校舎建替基本計画について

- まず、「計画策定にあたっての基本姿勢」についてである。

昨年8月に策定した基本構想では、枠組みでお示ししている、「町立学校の校舎建替の基本理念」や海田東小学校を建て替える際の「整備コンセプト」をまとめた。基本構想では、この基本理念、整備コンセプトを基に、整備方針を整理している。

そして、整備方針に基づいて、新校舎の設計を行うため、基本計画では、学校関係者等の意見も踏まえて、学校の敷地・施設の現状から見た課題と、その解決に向けた方向性を整理した上で、具体的な設計方針を定めた。

- 続いて、「課題の整理とその解決に向けた方向性」についてである。

先ほど、申し上げた基本姿勢に則り、地域ワークショップや地域説明会、さらには教職員のヒアリング等から、現状の課題を洗い出し、「教育環境」、「安全性」、「周辺地域」、「学校運営」の観点から、それぞれの課題の解決に向けた方向性を、整理した。

例えば、教育環境では、「本館と新館で高学年と低学年が離れているため、縦割り活動等に支障があり児童の一体感が生まれにくい」という課題があり、その解決策を、「一体的な校舎配置」としている。また、安全性では、「グラウンドが不整形であるため、視認性が悪く安全管理が難しい」という課題があり、その解決策を、「整形なグラウンドの確保」としている。周辺地域では「学校敷地南側に民家が近接しており、配慮する必要がある」ということに対しては、解決策を、「隣地から一定程度の距離を空けることや視線・騒音対策」としている。

- 次に「整備方針の具体的内容の整理（設計方針）」についてである。

先ほど、「現状の課題とその解決に向けた方向性」について説明したが、これらを踏まえつつ、基本構想に掲げる整備方針を具体化した設計方針について検討し、整理した。

- 「1 建替対象施設等」では、主に校舎の配置計画に関する考えをまとめている。

まず、教育活動の更なる充実、敷地の有効活用の観点から、基本構想でもお示ししていたが、本館・新館・給食室を一体的に整備する。新校舎は不整形な形状の敷地南側に配置し、敷地北側にグラウンドを配置することで、視認性の高い整形なグラウンドを整備する。こうした配置にすることで、建替時に仮設校舎が不要となるため、引っ越しの回数が1回で済むことから、児童の負担軽減や、建設コストの縮減につながると考えている。

ただし、敷地南側には民家が近接しているため、校舎と隣地との間の距離を一定程度空け、視線・騒音等の対策を行うなど、近隣住宅へ配慮した計画とする。また、給食室は町内他校への給食提供を見据え、配送車両の動線や安全性に配慮した計画とする。

次に、児童の安全確保、利便性向上の観点から、町民センター内の児童クラブを新校舎に移転させ、放課後の児童の安全を確保する。さらに、児童の負担軽減を図る観点から、工事期間を短縮し、可能な限り早期に供用開始できる計画とする。

- 「2 施設整備に係る方向性」では、主にゾーニング計画に関する考えについて説明する。資料中の表は、設計方針の項目を目次のようなかたちでまとめたものであり、これらの項目は基本構想で整理した整備方針をベースとしている。3つの大項目とこれに紐づく、9つの中項目と18の小項目のまとめりとなっており、その中でも、特に注力する3つの項目を重点項目としている。

- 重点項目の一つ目は、「①活力ある教育活動と温かな居場所が交わる学び舎づくり」の「同学年・異学年交流を促進する空間づくり」に連なる項目「学びの中心となる学校図書館の整備」である。

具体的には、学びの中心となる学校図書館ゾーンを複数階に配置し、その周りに各教室を配置することで、同学年・異学年交流を促進し、学校図書館ゾーンを中心とした室配置により学校全体が学びの場となる計画としたいと考えている。例えば、広島県内の事例として、大崎上島町にある広島県立広島叡智学園の学校図書館も、図書館を中心に教室を配置し、生徒が授業だけではなく、日常的に学校で過ごす中で図書館という場を通じて生徒間の交流を行っており、こうした事例も参考にしながら、具体的な検討を進めてまいりたい。

- 重点項目の二つ目は、①の「居心地の良い快適な空間づくり」に連なる項目「快適で温かみのある空間の整備」である。

具体的には、オープンでゆとりある空間構成や、安全に配慮したテラスの設置など、校舎内外に児童にとって多様な居場所となるスペースを確保することで、健康的で快適に過ごしやすい計画としたいと考えている。

- 重点項目の三つ目は、「②伝統と多彩な文化が息づく学び舎づくり」の「言語的コミ

コミュニケーションに頼らない学校施設の整備」に連なる項目「誰もが直感的にわかりやすいアプローチ（動線）計画・サイン（案内表示）計画」である。

具体的には、正門・南門から昇降口まで舗装等により動線を明示し、誰もが直感的に目的地にアクセス可能な計画としたいと考えている。

- また、重点項目ではないが、整備方針の3つ目の大項目「地域と共に未来を築く学び舎づくり」に連なる項目「学校と地域が支え合い協働していくための空間づくり」、「災害に備えた学校施設の整備」である。児童の安全を確保した上で、地域住民等が気軽に立ち寄ることができる地域交流スペースの整備や、地域の防災拠点としての機能が果たせるよう、防災性の高い施設計画としたいと考えている。
- スクリーンに現校舎配置図と、先ほど説明した設計方針を踏まえた新校舎の配置計画図を示しているが、配置計画では、敷地南側に駐車スペースを確保し、隣地から一定の距離を空けて新校舎を配置する計画としている。
- 続いて、スクリーンにゾーニング計画図を示しているが、先ほど、重点項目でも説明したように学校図書館ゾーンを複数階に普通教室ゾーンと隣接して配置し、児童の交流を促進する計画としている。
- 次に、「概算事業費」についてである。

本体工事費は新築・解体工事含め39億5百万円、附帯・関連整備費は、新校舎から体育館をつなぐ渡り廊下や備品・什器、給食室の厨房機器等を含め、8億3千2百万円で、あわせて、47億3千7百万円である。

今後、基本設計を進める中で、構造計画の合理化や諸室ごとに最適な設備機器を比較検討により選定するなど、イニシャルコストの縮減に向けた具体的な検討を進めてまいりたい。

- 次に、「事業スケジュール」についてである。
基本構想では、令和11年4月からの新校舎供用開始を想定したスケジュールであったが、各工程の主要な目標を明確にして設計期間を短縮し、さらに仮設校舎を建設しない計画として、工事期間を短縮することで、令和10年9月の新校舎供用開始と、令和11年8月の整備完了を目指してまいりたい。
- 基本設計に当たっては本計画でお示しした設計方針に基づいて、今後も学校関係者や町民の皆様の御意見も伺いながら具体的な検討を進めてまいりたい。具体的な検討に当たっては、近隣への配慮も含め、必要に応じて諸条件の見直しを行い、建築計画に反映することにより、海田東小学校の児童にとって「明日また行きたい学校」と思える、また、「地域と共に育つ学校」として将来にわたって地域の誇りを育む「地域の宝」となるよう学び舎づくりを目指してまいりたい。

質疑・御意見

- EVは設置するのか。
- 防災性の高い施設にしていくという観点や、ケガにより階段を使用することが難しい児童が出てくることも想定して、エレベーターの設置が必要と考えている。

- 地域交流スペースについて、地域住民が気軽に入れるようなスペースは児童にとって危険に思えるが、安全対策はあるか。
- 地域交流スペースは、今の予定では 1 階を考えている。住民の方が会議や寄り合いができるスペースや子供たちと学習の中で交流できるスペースを想定している。また、状況によっては防災等のための利用も考えている。セキュリティの面では、正門のカメラでの監視を行い予約制での利用とするなど、特に児童が校舎に滞在する時間帯については、自由というより学校管理下での利用を想定している。
- 近くに町民センターがあるため、そこを利用すれば地域交流スペースは必要ないのではないかと。地域交流スペースがあることで面積が増え、校舎が近隣住宅と近くなっていることが気になる。
- 地域住民だけでなく、児童の集会スペースとしての利用も想定している。
- 校舎の配置の変更はできないと認識しているが、こういった意見なら取り入れてもらえるか。
- 校舎と近隣住宅との距離の確保、視線を遮る建築的工夫、音が回り込まないようにスピーカー位置の検討、児童の使用時間の制限など、今後設計の中で意見を聞きたいと考えている。
- 近隣住宅側の敷地境界線と校舎との離隔について、以前の説明では 8m と聞いたが、圧迫感があり、風通しも悪くなるのではないかと。
- シミュレーションしたところ、日影にはならず、風についても変化がないという結果となった。外壁の凹凸を工夫するなど可能な限り圧迫感の少ない計画としていく。
- 離隔について確定するのはいつか。
- 基本設計で確定するのは 10 月末であるが、途中で何度かに分けて情報提供する。
- 近隣住宅との離隔について、南側は駐車場分の離隔が確保できているが、東側は同程度確保できていないのはなぜか。
- 校舎の必要面積もあるため、全て同じ離隔を確保することは難しい。建築的な工夫による配慮と離隔の確保の併用で考えている。
- 給食室の臭いについて、対策や問題発生時の対応をどう考えているか。
- ダクトなど建築的工夫による対策を考えている。臭い、音、光について、気になるか否かは主観的であり判断が難しいため、客観的なデータや、シミュレーションによって数値的に健康被害が出ないようにする。それでも問題が発生した場合は、ヒアリングなどを行い、丁寧に対応、改善していく。
- 敷地南側の水路の蚊について対策してもらえるか。
- 工事する上で改善の取組をしていく。
- 説明会に町長が出席しておらず、ワークショップの際も 30 分程度の出席であったのはなぜか。住民が不信感を持っていたことを伝えてほしい。
- 小学校の建替については、教育委員会で対応することとしている。住民が不信感を持っていたことについては共有しておく。
- 体育館が触れられていないが、体育館の安全性や熱中症対策をどう考えているか。

- 安全性について、平成 19 年に体育館の耐震化や内部改修等を行ったため、これから 20 年程度は建替の予定はない。熱中症対策について、今回の計画には含まれていないが今後エアコンの設置などは検討する。
- 物資の高騰について、想定外の場合は基本計画や工期の変更を考慮しているか。
- 計画の変更により規模を小さくする、工事を一時中断するなど工期の若干のずれは考えられる。現状では最短の工期を示しているが、今後も随時示していく。
- 同時期に海田東地区拠点施設整備が計画されていると聞いているが工期が被らないか。児童の登下校や学校生活の安全性が気になる。
- 海田東地区拠点施設整備としての町民センターと海田東公民館整備計画については、一昨年まであったが、海田東小の建替えを優先することとなったため、現状、決まっていない状況である。